

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第12巻：229-231 (2004)

我孫子市手賀沼周辺へのハクビシンの侵入

平岡 考¹・中山裕之²・小林さやか¹

キーワード：ハクビシン, *Paguma larvata*, 千葉県, 我孫子市, 手賀沼, 移入種, 分布, 侵入

ハクビシン *Paguma larvata* は中国中南部・台湾・東南アジア・カシミール地方などに生息するジャコウネコ科の哺乳動物で、日本では1930年代または40年代に初めて野外から捕獲され太平洋戦争後に分布を広げた移入種と考えられている(中村ほか1989)。落合(1998)によれば千葉県では関東地方ではもっとも遅く1987年に初めて生息が確認され、1997年までにはほぼ全県に分布を広げているが、流山の1980年代の記録を除くと、関宿・野田・流山・松戸・柏・我孫子・沼南・白井・印西・本埜・栄等の県東部の市町村からは生息記録が報じられていない。

2003年5月1日、我孫子市高野山で1頭のハクビシンの新鮮な死体が拾われた。筆者らの知る限り、我孫子市の手賀沼周辺でのハクビシンの観察記録は、たかだかここ2年ほどさかのぼるにとどまり、この拾得例は死体をとまなう初めての記録と考えられる。ここにこの拾得死体について記録するとともに、近年の観察記録についても簡単にまとめておきたい。

この死体は、2003年5月1日午前10時ころ筆者の一人小林により、我孫子市高野山の道路わきの草むらで発見された。死体は眼球が落ち込んでおらず新鮮で、発見当時死後硬直が見られ、発見の状況から当日早朝に交通事故にあったのではないかと推察された。死体は回収され、外観の写真撮影ののち、その日のうちに東京大学獣医病理学教室に献体され解剖された。スケールを写しこんだ写真(図1)から計測した頭胴長は約62cm、尾長は約41cmであった。体重は4.12kgであった。解剖の結



図1 我孫子市高野山で死体で拾得されたハクビシン(2003年5月1日)

果、若い雌成獣であり、感染症等の疾病は認められず、死因は交通事故による肝・腎破裂、肺出血、胸郭破損と考えられた。胃内容は、骨、臓器、皮、木の実、人参などの混じた褐色泥状物であった。人参は人間の出した生ごみ由来と考えられ、この個体は小型の脊椎動物、木の実、生ごみ等を食べていたと考えられた。

筆者らの知る範囲での我孫子市の手賀沼周辺のハクビシンの記録を表1に示す。表に示した記録はいずれも山階鳥類研究所(以下、山階鳥研)の職員または旧職員によるものである。山階鳥研は、1984年に我孫子市高野山の現在地に移転し、約20名の職員が勤務している。山階鳥研の職員は哺乳類の専門家ではないが、鳥類の研究者として野生動物一般に対する関心や知識は一般の市民よりは高いといつてよい。表1のNo.1の観察をした笹川昭雄は我孫子

1 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115 (財)山階鳥類研究所

2 〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医病理学研究室

No.	日付	場所	観察/発見者	その他
1	2001年5月7日	我孫子市高野山	笹川昭雄	自宅庭に夜出現。鼻筋白く尾が長く、鼻が細くしゃくれたようで、毛並みがリスのよう（ネコのようでない）であった。（無記名2001参照）
2	2002年9月26日	我孫子市寿2丁目	百瀬邦和	20:30。顔の中央の白線を確認。やや小さく感じた。
3	2002年4月30日	我孫子市高野山	小林さやか	13時頃。山階鳥研裏の畑を山階敷地沿いに移動。尾の長いタヌキだと思ったが、no. 4のハクビシン死体を見てから考えるとハクビシンである。
4	2003年5月1日	我孫子市高野山	小林さやか	（本研究）我孫子市鳥の博物館前から数十メートル手賀大橋寄りの車道上。交通事故死体。
5	2003年5月1日	我孫子市寿1丁目	浅井芝樹	23時頃。国道356号線上。交通事故死体。顔中央の白色縦斑を確認。昼間にno. 4の死体を見たばかりですぐわかった。

表1 我孫子市手賀沼周辺におけるハクビシンの記録

移転以前から山階鳥研に在籍し、1986年我孫子市高野山に転居して1995年の退職後も同地にひきつづき居住している。笹川以外にも山階鳥研の我孫子移転にともない我孫子市内や近隣市町村に転居した職員が複数いる。このように、15年以上にわたって比較的知識と関心の高い複数の観察者が通勤途上も含め折にふれ野生動物を目にしている中で、それまでまったく観察されなかったハクビシンが、2001年5月の記録を皮切りに、約2年の間に5例の記録を見せていることから、従来生息していなかった本種がこの2年程の間に我孫子市の手賀沼周辺に侵入したことが示唆される。本種が夜行性で観察されにくいことを考慮すると、もっと早い時期から散発的な分布があった可能性もあるが、その場合、近年突然観察されるようになったことはこの2年程の間に定着し増加したことを示しているのかもしれない。

なお、我孫子市高野山周辺に生息するタヌキ *Nyctereutes procyonoides* では1998年ころより脱毛した個体が観察され疥癬症の流行が疑われているが（落合・石井・平岡2003）、表1に示したハクビシンではいずれも脱毛は観察されていない。

山階鳥研旧職員の笹川昭雄氏、現職員の百瀬邦和、浅井芝樹の両氏は観察記録を提供してくださった。また、我孫子市鳥の博物館の時田賢一、斉藤安行の両学芸員は鳥類には直接関係のない本稿を、地域の自然誌情報としての価値を認めて同館の研究報告に投稿することを認めてくださった。ここに記して感謝したい。

引用文献

- 無記名2001. 会員からのお便り. ほーほーどり, 161:9-10.
- 中村一恵・石原龍雄・坂本堅五・山口佳秀
1989. 神奈川県におけるハクビシンの生息状況と同種の日本における由来について. 神奈川県自然誌資料10:33-41.
- 落合啓二1998. 千葉県におけるハクビシンの分布と移入経路. 千葉県中央博自然誌研究報告, 5(1):51-54.
- 落合啓二・石井睦弘・平岡考2003. 千葉県のタヌキおよびタヌキ以外の野生哺乳類における疥癬の発生状況. 千葉県中央博自然誌研究報告, 7(2):89-103.

Invasion by Masked Palm Civet of the neighborhood of Lake Teganuma in Abiko City

Takashi Hiraoka¹, Hiroyuki Nakayama² and Sayaka Kobayashi¹

KEY WORDS: Masked Palm Civet, *Paguma larvata*, Chiba Prefecture, Abiko City, Lake Teganuma, introduced species, distribution, invasion.

A fresh road kill carcass of an adult female Masked Palm Civet *Paguma larvata* was picked up on 1 May 2003 at Konoyama, Abiko City. This is the first record of this species with the evidence of dead body in the neighborhood of Lake Teganuma in Abiko City. As far as we know the earliest observation record of this species in the area of Lake Teganuma in Abiko City dates back only about 2 years. Records of observation and dead bodies suggest that this species invaded this area fairly recently.

1 Ymashina Institute for Ornithology, Konoyama 115, Abiko, Chiba Pref. 270-1145

2 Laboratory of Veterinary Pathology, Graduate School of Agricultural and Life Sciences,
The University of Tokyo, 1-1-1 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8657